

ふれあい

2015年 冬季号 vol.57

2015年(平成27年)1月31日発行

日本医療機能評価機構認定病院 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院 広報誌
TEL: 076-246-5600 FAX: 076-246-3914 石川県野々市市郷町262-2
http://www.nouge.net



病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

基本方針

1. 患者の皆様と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

患者の皆様への権利

私達は患者の皆様への権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様への権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、十分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

患者さんコーナー

七尾市 岡 幸治 様

寒さも段と厳しくなりました。皆様におかれましては益々ご清祥の事ご活躍のことと存じます。

私は以前院長先生、ならびにスタッフの皆様にご大変お世話になった者です。ちょうど一年前に、腰部脊柱管狭窄症のため院長先生に手術をして頂きました。以前は両足がしびれるため10m間隔に、休みながら歩いていましたが、お陰様で足のしびれはなくなり、毎日、畑仕事をしております。

私は院長先生に出会うまでは、近くの総合病院の整形外科に通院しておりました。腰部脊柱管狭窄症と診断されましたが、自分が人工肛門でストマをしていたことや心臓の疾患がある為、手術はあまりすすめられないと言われました。半分あきらめかけていた所、友人から佐藤先生のご活躍をお聞きし、先生に腰を治していただきました。

今は畑仕事や庭の木の剪定を楽しみながらやっています。自分でもこんなに元気になった事驚いています。

先生やスタッフの皆様へ感謝しております。先生もお忙しい身ですが、お風邪などひかぬようどうぞご自愛ください。又何かありましたら是非先生に診ていただきたいと思っておりますので、その節にはどうぞよろしくお願ひします。

「腰椎手術はこわくない」には数々の腰椎変性疾患の謎解きがあります



病院長 佐藤 秀次

腰椎変性疾患(ヘルニア、狭窄症、すべり症、側彎症など)の手術に迷っている。手術を受けたがよくなるらない、どうしたらよいであろう。手術でかえって症状が悪くなった、なぜだろう。こんな疑問や悩みをお持ちの方は全国に大勢いることと思います。これは仕方ないことなのでしょう。私はそうは思いません。

なぜ手術が必要なのかを患者さんが理解できるようにポイントを押さえた説明がきちんと行われたなら、患者さんの不安の80%は解消するものです。手術を受けたにも関わらず、症状の改善の得られない患者さん。これには、よくなる原因が取り残されているはず。それを医師が見抜けないので、わからない。医師にもあり得る

ことです。

手術後に症状が悪化した患者さんにも、必ず原因があります。その原因を突き止め、再手術で良く出来る場合は少なくありません。この検討がきちんとなされているでしょうか。私は、原因不明手術を受けたが症状はよくなるなかった、術後にかえって症状が悪くなったという患者さんを全国から大勢受け入れ、多数の再手術、再々手術などを行い、症状を改善してきた経験から、何がこれらの良くなる原因でない、あるいは悪くなる原因であるのかの大部分を経験してきたつもりです。

これらの謎解きが「腰椎手術はこわくない」に詳しく書かれています。その他、多くの「なるほど」という気づきが得られると確信しています。是非、皆様の手引き書として一読していただければ幸いです。



医療と介護 の連携

地域医療福祉部
地域医療連携課

脳卒中になられた方が、地域で安心して質の高い生活を送ることができるよう、野々市市と白山市の介護サービスを紹介しています。



今回紹介するのは、『ショートステイ(短期入所生活介護)』についてです。ショートステイは、家庭における介護が一時的に困難になった時など、施設に短期間だけ入所して、食事や入浴などの生活援助と機能訓練を受けることができます。利用できる期間は、最長30日間です。※介護保険の申請については、お住まいの地域の市役所にご相談ください。

野々市市役所 (介護長寿課)

076-2227-6066

白山市役所 (長寿介護課)

076-274-9529

地域の事業所紹介

ケアハウス剣崎 ショートステイ



(特色)

『いつも前向きに、自分らしく！生活できる場所であってほしい』をモットーに、平成17年4月に開設。居室は、個室9部屋、多床室2部屋。四季折々の食材を使用した行事食や郷土料理が人気です。

(職員)

13名

(利用者)

白山市内、能美郡川北町等

(介護福祉士より)

利用者さんに気持ちよく穏やかな日々を過ごしていただくために、専門職としての自覚と職員のチームワークを大切にしています。一人一人の利用者さんとの対話を心掛け、『話すこと』『聞くこと』を通して、より良い介護に努めています。

利用者さんにとっては、生活する場所があくまでも自宅です。生活の場所として、利用者さんが自宅で感じる安心感や満足感に、こうした施設はかきません。

私達は、せめてこちらで過ごす間は、ここにいるのが楽しいと感じてもらえるように、様々なゲームやレクリエーションを開催し、たくさん笑顔が見られるように取り組んでいます。利用者さんが楽しいと感じてくれたら、私達も楽しいし、利用者さんを楽しませることがやりがいにつながっています。短期間でも、自宅とは違う環境を楽しんでもらいたい、前向きにその人らしく過ごしていただければと考えています。

(仕事に対する想い)

一番うれしかったことは、今まであんちゃんとか呼んでくれなかった利用者さんが、名前をきちんと覚えて呼んでくれた時です。

また、利用者さんから、「ありがとう」と言われた時です。些細なことかもしれませんが、私にとっては大きな喜びであり、信頼関係を築くことの大事さを感じる瞬間でもあります。

施設では、定期的に利用者さんと一緒にお菓子作りをするなど、『剣崎カフェ』を開催しています。天気の良い時期には、ドライブなどの外出行事もあります。秋は紅葉を楽しみ、春には

花見に行くなど季節に合わせていろいろな行事を楽しんでいます。今後は、さらに利用者さんに喜んでいただけるような行事を充実させていく予定です。



ケアハウス剣崎

住所 石川県白山市剣崎町1488番地
TEL 076-275-6688
月曜日～金曜日 8:30～17:30
(ショートステイは年中無休)

地域医療連携課トピックス

- 11/6 加賀脳卒中地域連携協議会 第7回役員会
- 11/28 こまつ在宅医療研究会・具介護支援専門員協会南加賀支部・加賀脳卒中地域連携協議会「ラボ研修 耳寄りな講演会」
- 11/30 山本副院長・熊橋薬剤部部長 加賀脳卒中地域連携協議会 第6回総会
- 12/4 耳寄りな講演会
- 12/7 耳寄りな講演会
- 12/11 耳寄りな講演会
- 12/17 耳寄りな講演会
- 1/15 加賀市在宅医療連携推進協議会・加賀脳卒中地域連携協議会「ラボ研修 いしかわ921在宅ネットワーク」加賀脳卒中地域連携協議会「ラボ研修 第6回おんな川病診連携の会」
- 1/23 白山・野々市市認知症セミナー

その3

日本の医療提供体制はこう変わる！

「病床機能報告制度」ってなんだろう？

前回、今の日本の医療提供体制は、一般病床（急性期機能）が圧倒的に多く、在宅へつなぐための病床（回復期機能等）が少ないというお話をしました。では、どうすればバランスのとれた適切な医療提供体制が構築できるのでしょうか？今回は、その実現のための取り組みの一つである「病床機能報告制度」についてお話しします。

「病床機能報告制度」とは、各病院が「現状」と「将来の予定」について、自院の各病棟が担う機能を「高度急性期」、「急性期」、「回復期」、「慢性期」の4つから選択し、都道府県に報告する制度で、医療法の改正により今年度導入されました（図参照）。

現在、各都道府県が策定している医療計画は「一般病床及び療養病床」といったような大雑把な区分で地域（二次医療圏）ごとの全体の病床数を規制しているだけなので（※）、地域に「どういった機能の病院が、どれくらいあるか」が見えにくくなっています。その結果として、一般病床（急性期機能）に偏ったアンバランスな医療提供体制になっているとも言えるかもしれません。

病床機能報告制度によって、これまで見えにくかった、その地域の持つ医療機能の現状はある程度わかるようになりませんが、もちろんこれだけでは一般病床（急性期機能）過多をはじめとする現在の医療提供体制のアンバランスという根本的な問題は解決しません。

病床機能報告制度の結果を踏まえ、次に行われるのが、各都道府県による「地域医療構想（ビジョン）」の策定です。これについては次号でお話したいと思います。

※石川県ホームページ「石川県医療計画」

図. 4つの医療機能

医療機能の名称	医療機能の内容
高度急性期機能	○急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能
急性期機能	○急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期機能	○急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能 ○特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）
慢性期機能	○長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 ○長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

出典：平成26年7月24日 厚生労働省「第12回病床機能情報の報告・提供の具体的なあり方に関する検討会」より抜粋

第3回

脳卒中予防のABC

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 櫻井香織・坂上みどり

冬の脳卒中予防

寒い日が続き、暖房器具



を使用しているご家庭も多いと思います。部屋の中は暖かい一方で、廊下や浴室・脱衣所の気温はどうでしょうか。実はこの寒暖の差が血管に負担をかけて、脳卒中の発症に影響する場合があります。

その理由は、屋内の暖かい所から急に寒い所に移動することで、血管は収縮して急激に血圧が上昇するからです。血圧が上昇することで血管に負担がかかり、脳出血やくも膜下出血を発症しやすくなります。

また、寒い所から暖かい所へ移動することで、血管は拡張して血圧は低下し、脳梗塞を発症しやすくなります。特にこの季節、部屋と廊下・トイレ、浴室と脱衣所などに寒暖の差が生じやすいのが現状です。

よって、脳卒中を予防するためには、急激な温度の変化に注意して、屋内の寒暖の差を最小限にしたいものです。例えば、脱衣場や浴室は、寒くないようヒーターで温めてから使用する、トイレは温座便器を使用する、部屋を出る時は衣服の上から上着を羽織るなどを習慣づけて脳卒中の予防に努めましょう。

患者さんコーナー

金沢市 由雄 清重 様

外科を教えてもらいました。親戚の方もこの病院で完治したと聞き、早速色々診て頂き、「この分では歩けなくなる」と言われ、薬をもつかむ気持ちでお願い致しました。

本日に毎日を快適に過ごさせて頂き、ありがとうございます。私はここ七八年、脊柱管狭窄症にて三百六十五日色々薬を飲み、ホットカイロを夏でも手放す事が出来ませんでした。台所で二十分立っている事も出来ず、腰掛け十分、又十分立つて又十分休み、本当にノイロ一ゼになりそうでした。このつらさは誰にもわかつてもらえないです。親戚に相談したら、金沢脳神経

入院し、看護師達に色々親切にされ、気持ちよくお世話になり、術後はうその様に体に痛みがなくなり、本当に十才は若くなった様に気が軽くなり、笑顔が出る様になりました。院長先生のお陰です。台所は二時間立つても平気です。益々、老後は何をしようかと楽しみにしています。院長先生をはじめ、皆様ありがとうございます。ございました。感謝でいっぱいです。

ふれあい健康講座開催

患者・職員
満足向上委員会



11月16日に当院にてふれあい健康講座『認知症にならないために』を開催しました。

佐藤病院長による認知症の講演と脳卒中リハビリテーション看護認定看護師による脳卒中の講演を行いました。

講演の間には野々市市の大人気ゆるキャラのつていが登場し、のつてい体操を披露してくれました。楽しい歌と覚えやすい動きで、参加者全員で盛り上がりました。元氣いっぱいのでかいのつていに、笑顔あふれる楽し

いひとときとなりました。
また各部門によるポスター展示をはじめ、おむつ交換や更衣介助などの介護実演コーナー、実際の補助器具を用いたりハビリテーション体験コーナーも行いました。

栄養部や薬剤部のポスター展示では、普段の食生活や服用しているお薬など、身近なことを質問できる機会とあつて、時には行列ができるほど人気が集まりました。

介護実演コーナーでは、ベッドから車椅子への移乗介助などを実演し、退院後の患者さんを見守るご家族より、大変好評でした。

今年もふれあい健康講座に多くの皆様にご参加いただきありがとうございます。来年も皆様に、より一層楽しんでいただけるように、職員一丸となり、取り組んでいきたいと思えます。



患者さんコーナー

能登町 水上榮治様

幸せな日々はすぐに経ってしまいます。私がMD法の手術を受けたのは、二年前の六月四日でした。あの頃のこととは今でも鮮明に記憶にあります。

病名がはつきりしてからも痛い腰をさすりながらの毎日で、いろいろな迷いがありました。ネットで調べたり、すでに手術をされた近所の人達に話を聞いたり毎日でしたが、最終的に決断させてくれたのは院長先生が北國新聞のコラムに書かれた記事を拝見したことでした。これにしよう、そう決めました。手術による出血が少ないこと、翌日は歩行できること、痛み止めがいらぬこと、何より症例の多いことが安心感を与えてくれました。

十月に院長先生の診察を受け、手術は翌年の六月上旬に決まりました。唯この八ヶ月の待ち時間は、不安と共に長い待ち時間でした。

お待ち時間でした。

術後、麻酔の先生の元気な声がとび込んできました。「水上さん終りましたよ。」はっと目覚め、おうむ返しに「有難うございました。」と叫んだみたいです。翌朝には、痛く重たい感じが腰から抜けて、すっきり感が全身に感じられました。

入院中は、院長先生をはじめ、担当の先生、リハビリ棟の職員の方々の親切なご指導助言、看護師さんの親切なお世話も身にしみて有難く思いました。約一ヶ月の入院中、看護師長さんの活花に癒され、同郷の何人かの看護師さんのお世話になり、まるでローカルの病院に入院しているかのような安堵感の中で、二六日間の入院生活を送ることができたのは幸せでした。

術後二年半、たいした症状もなく、当時はなつかしみながら改めて、院長先生をはじめ、いろいろお世話して下さいました関係職員の皆様方に万感の思いで感謝の言葉を申し上げます。誠に有難く、今後の益々の御発展をお祈り申し上げます。



『腰椎手術はこわくない』

「痛み止めが効かない！」
「足のしびれが出てきた！」
それは保存治療から手術治療に切り替えるタイミングかも知れません。

佐藤病院長の著書「腰椎手術はこわくない」(秀和システム 定価1,404円(本体1,300円))はただ今、全国書店、ネット通販にて好評発売中です。当院の売店でも取り扱っておりますので、ぜひ御一読ください。

